



わかるかな？

右の①～④の
写真とつながりの
深いものについて、
名前と番号を線で
結んでみましょう。



①

②

③

④

ちょうちん

はっぴ

ししまい

おみこし

3 宇都宮の祭りと民俗芸能



つかむ

宇都宮の祭りや民俗芸能について話し合ってみましょう。

ことば

民俗芸能

行事の中で伝えられてきた民間の芸能。郷土芸能ともいう。

ことば

神楽

神をまつるために奏する歌と舞のこと。



→ p.71

学習問題

宇都宮に伝わる祭りや民俗芸能には、どのようなものがあるのでしょうか。



関連する
単元だよ

2年 → 道徳 ● うつのみやのまつり (地域教材)

3年 → 社会 ● わたしたちの市や生活の様子のうつりかわり

4年 → 社会 ● 栃木県で受けつがれてきた伝統や文化ざい ● 県内の特色ある地いき 音楽 ● 日本のお祭りをたずねて

6年 → 国語 ● 古典芸能への招待状 外国語 ● Welcome to Japan.

社会 ● 武士の世の中へ ● 江戸幕府と政治の安定 ● 町人の文化と新しい学問

調べる

二荒山神社の祭りや、各地の獅子舞、お祭りについて調べましょう。



二荒山神社の祭り

宇都宮の町の中心に位置し、宮っこととてずと心のよりどころの二荒山神社。ここでは、歴史の古さと格式の高さを伝える祭りが季節ごとに行われています。

→ p.68、69 → p.70、71



毎年1月15日と12月15日に開かれている『おたりや』ってどんな意味なんだろう？

→ p.71



7月の天王祭では、40基の子ども神輿が市内を練り歩き、神社にある親神輿と対面後、二荒山神社の階段を上がっていくんだ。

→ p.68



10月の菊水祭で、やぶさめを見たことがあるよ。すごい迫力だったよ。



菊水祭のときには、大きい山車やきれいな彫刻がある屋台が市内を練り歩いているね。



天王祭や菊水祭以外に、二荒山神社で開かれているお祭りには何があるのかな？

二荒山神社宮司 阿部 穂さんのお話

二荒山神社では、四季を通じてさまざまなお祭りをしています。それぞれ重要な意味を持っており、人々の無病息災、五穀豊稔の祈念、神様への感謝、郷土の繁栄・平安などを願って行われています。

古くから続き、歴史あるこれらのお祭りは、いつの時代も人と人を結びつけ、人々の楽しみとしての役割も果たしています。そのため、神社は地域の中心としての役割も担っているといえます。

これからも伝統ある祭りを大切に守り、次世代につなげていきたいと思っています。



▲おたりや



▲子ども神輿の石段上がり (天王祭)



▲やぶさめ (菊水祭)



▲本郷町の人形山車



2

宇都宮の伝統文化

3 宇都宮の祭りや民俗芸能



▲関白獅子舞



宇都宮の獅子舞

宇都宮市内には、7つの地域でそれぞれの獅子舞が伝えられています。一人が1匹の獅子を演じて、腹に太鼓をつけ、雄2匹、雌1匹の3匹で踊ります。毎年8月には、各地域で獅子舞が踊られ、地域の保存会によって大切に守られ、次の世代へと伝えられています。

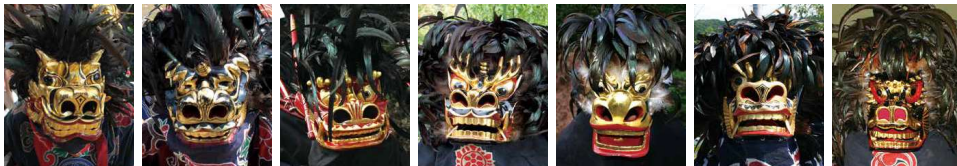
天下一関白獅子舞保存会会長 村上 實さんのお話

天下一関白獅子舞（関白獅子舞）は、栃木県内各地に今も伝わる関白流獅子舞の中でも一番歴史が古く、関白流獅子舞の源流です。栃木県の獅子舞を知る上でも貴重なものとなっていることから、栃木県の無形民俗文化財にも指定されています。獅子舞の演目は、神詣りをはじめとして、7つありますが、どれも重要な意味をもっています。獅子舞の奉納の前には、入念に練習を行い、数日前から地域で協力して準備を行っています。地域のつながりといった面でも、獅子舞の果たしている役割は重要だと思えます。

保存会をはじめとする地域住民は、関白獅子舞を誇りに思い、愛着をもって取り組んでいます。次の世代に継承することができるように、若い人たちにももっと参加してもらって、伝統を守ってほしいと思います。



じっくり見比べてみると、ちがいが分かるぞ。



▲関白 ▲中里西組 ▲逆面 ▲宗円 ▲関堀 ▲上横倉 ▲飯山

獅子舞	行われる日	内容
関白獅子舞	8月第1土曜日	かみかわち 上河内地区の関白山神社の祭礼で、悪魔払い、家内安全、厄難消除として行われる獅子舞
なかざとしくみ 中里西組獅子舞	8月15日	わた 中里西組自治会で長きに渡り伝承されている天下一関白流獅子舞
きつら 逆面獅子舞	8月15日、 八朔(旧暦8月1日)	ごこくほうじょう 五穀豊穡・子孫繁栄・家内安全を祈願して逆面の白山神社に奉納される、関白獅子舞の流れをくむ一人立三匹獅子舞
そうえん 宗円獅子舞	8月16日、 8月の最終日曜日	にこきょう 宇都宮市北西部に位置する、新里町乙新郷地区の日枝神社で奉納される獅子舞
せまほり 関堀獅子舞	8月16日	たけのこ 源義家が奥州を平定したときに京都御所で舞われていたものを残したと伝えられ、関沢の観音堂で奉納されている獅子舞
かみやくら 上横倉獅子舞	8月15日	たかたけ 関白流を名乗り江戸時代中期に伝えられたもので、多藤神社に奉納されている獅子舞
いひやま 飯山獅子舞	8月15日	あま 宇都宮市北部に位置する飯山地区の阿蘇神社に奉納される獅子舞

まとめる

宇都宮の祭りや民俗芸能についてまとめてみましょう。



ワークシート

二荒山神社の祭り	● どんなお祭りがあるか書いてみよう
宇都宮の獅子舞	● 獅子舞について分かったことを書こう
書いてみよう お祭りや民俗芸能を	自分の地域に伝わる

ひるげる

宇都宮の祭りや民俗芸能についてまとめて、考えてみましょう。



今も残る祭りや民俗芸能は、神様に豊作の願いと実りへの感謝をするとともに、人々の健康、くらしの安全等を祈って行われてきました。また、祭りや民俗芸能を通して、地域の人々がつながっていきました。時代が変わっても、この思いは変わりません。

人々の願いや思いがこめられた祭りや民俗芸能は、地域の人々や保存会、関係者の方々によって今も大切に守られ、次の世代へと受けつがれています。

それぞれの祭りや民俗芸能には特徴があり、どれも宇都宮を代表するものです。実際に見てみたり、参加したりして、人々の祭りや民俗芸能に対する思いや願いを感じてみましょう。

夏

祭り王国 うつのみや



動画で祭りの様子を見てみよう。



今泉八坂神社の天王祭

7月15日から19日に行われます。神輿渡御のほか、江戸中期から毎年境内に飾られる「飾り物」は、夏祭りの名物です。

石那田八坂神社の天王祭

7月の最終土曜日まで1週間かけて行われる祭り。4年に一度、神輿の渡御とともに猿田彦や彫刻屋台が巡行する付け祭りが行われます。

各地で行われている天王祭

宇都宮市内各地にある八坂神社や須賀神社などで、神輿渡御等の祭りが行われています。

各地で行われる天王祭

天王祭はもと、疫病退散に靈験のある牛頭天王の祭りで、疫病がはやる夏を前に行われます。二荒山神社の天王祭のほか、今泉八坂神社、石那田八坂神社のほか、市内各地の八坂神社や須賀神社などでも祭りが行われています。

二荒山神社天王祭

二荒山神社の境内社として須賀神社があり、以前は牛頭天王を祭っていたことから、天王祭が行われています。7月15日から20日に行われる祭りでは、各町内の約40基の子ども神輿が下之宮に安置された親神輿と対面し、迫力あるその姿は夏の風物詩となっています。



智賀都神社の夏祭り

徳次郎町六カ郷の守護神である智賀都神社の夏祭りは、例大祭の付け祭りとして3年に一度（令和元年実施）、7月最終土曜日（かつては8月1日）に行われる祭りで、目の覚めるような彫刻屋台6台が、境内に勢ぞろいします。



現在は少なくなりましたが、最近復活する動きも見られるぞ。



新しい祭り

これまで見てきたような伝統の祭りと同じように、宮っこたちが宇都宮のことを思った新しい祭りが始まっています。

こうした祭りは、おみこしやお囃子、また、蕎麦遣りや梵天などの貴重な伝統芸能を今の人たちに披露する大切な場になっています。
※金囃子は後継者がいないため活動休止中。

p.60

ふるさと宮まつり

毎年開催される夏祭り。宇都宮のメインストリート、大通りを中心にくり広げられる熱狂的なイベントです。みこし・パレード・郷土芸能・おどり・お囃子・和太鼓・木遣・宮っこよさこいのほか、園児が参加する宮っ子パレードなど多彩な催しが宇都宮の夜を飾ります。



本祭り当日、屋台が出發するのは夕暮れ時からで、屋台本体の周囲に120個もの提灯がともされ、威勢のよいお囃子の音が響き渡る中で、引き手の掛け声とともに力強く巡行します。

天祭と天棚

天祭は、天道祭、天念仏とも言われ、月や太陽などの自然の神々に、五穀豊穡や風雨順調、村内安全などを祈るお祭りです。彫刻で飾られた二階建ての天棚を設置します。二階で、身を清めた行人が願いごとをし、一般の参加者はお囃子の音に合わせて天棚の回りをぐるぐる回り、行人の願いを助けます。市内には確認されているだけで60基以上の天棚があり、以前は市内各地で天祭が行われていました。



宇都宮の
祭り

秋

梵天祭り

梵天とは神様を招き寄せる目印で、もとは、細長く切った和紙や麻でつくったものを竹の先につけていました。現在ではビニールテープなどを房状に取り付けています。

今里町の羽黒山神社の梵天祭りが特に有名で、毎年多くの見物客が集まります。梵天祭り（11月23日、24日）は五穀豊穡、家内安全を願う「梵天」を神社に奉納する盛大なお祭りで、梵天の房が付けられた長い竹竿を、祭り衣装に身を包んだ若者たちがかつぎ、「ホイサ、ホイサ」と威勢のよい掛け声とともに羽黒山頂上にある羽黒山神社まで3kmほどの参道を練り歩きます。

梵天祭りは、鶴田町の羽黒神社や白沢町の白髭神社、平出町の雷電神社でも行われ、篠井町の榛名山神社でも梵天あげが行われます。

動画で祭りの様子を見てみよう。



梵天が練り歩く道路そばでは、名物の柚子や、梵天祭りの行事食「鮎のくされ鱈」などが売られているぞ。



▶ p.81

白髭神社の秋祭り

白沢町の屋台の巡行は、白髭神社の例大祭の付け祭りとして、5年に一度（平成30年実施）、11月初旬の土・日曜日に行われます。町内を彫刻屋台（宇都宮市指定文化財）2台が巡行し、鳥居前ではお囃子が奉納されます。前日は自分の町の町内を引き回す「宵祭り」、例大祭当日が神社に屋台を奉納する「本祭り」です。ちなみに付け祭りは、明治初期ごろには行われていたようです。

屋台は白沢南と甲部に1台ずつ計2台あり、いずれも唐破風屋根の鎔造りで、四方八方に華麗な彫刻が付いた屋台です。白沢南屋台は、黒漆塗り彩色彫刻屋台で、文政3（1820）年に鹿沼麻亭町で造られたものを、明治8（1875）年に譲り受けました。一方、甲部屋台も同じく黒漆塗り彩色彫刻屋台で、天保4（1833）年ごろ宇都宮で造られたものを譲り受けたと伝えられています。

屋台の巡行は、宵祭りが午後3時から午後9時ごろまで、本祭りは午前9時から午後1時ごろまで行われます。行列は高張提灯を先頭に、手古舞、町会役員、拍子木、引き手、舵取り（若衆）、屋台の順で進みます。神社鳥居前では、宵祭りは午後8時ごろ、本祭りは正午ごろ、お囃子の競演である「ぶつつけ」がにぎやかに行われ、笛、太鼓、鉦の威勢のよい音が町内に響き渡ります。



二荒山神社の祭

冬渡祭・春渡祭（おたりや）

宇都宮市民に一年の終わりのや正月の終わりを告げる夜祭。始まりは、古く838年までさかのぼると言われています。夜中に行われるため「渡り夜」とよぶようになり、後に「おたりや」とよばれるようになったと伝えられています。

現在では、12月15日と1月15日に行われ、12月を「冬渡祭」、1月を「春渡祭」と書き、どちらも「おたりや」とよびます。

境内に設けられたお焚き上げ所では、冬渡祭ではお札や達磨などの縁起物を、春渡祭では正月の松飾りや注連縄を焚き上げてもらいます。



田舞祭

田楽舞は二荒山神社の田舞祭で行われる五穀豊穡を祈念する舞いです。二荒山神社で現在の田楽舞が行われるようになったのは、江戸時代文化年間のこと。夏の初めの田植えの祭礼行事に五穀豊穡を祈念して田楽舞が神社の祭りに取り入れられたものと考えられています。田舞祭は現在では5月15日に行われています。また田楽舞は、田舞祭のほかに、12月15日と1月15日の「おたりや」でも奉納されます。



神楽 — 神様をもてなす神事 —

二荒山神社の神楽は太々神楽とよばれ、江戸時代中ごろに江戸系統に属する神田流から教わったと伝えられ、神社では「宮比流」と称し、毎年1月・5月・9月の28日に、神楽殿で奉納されています。

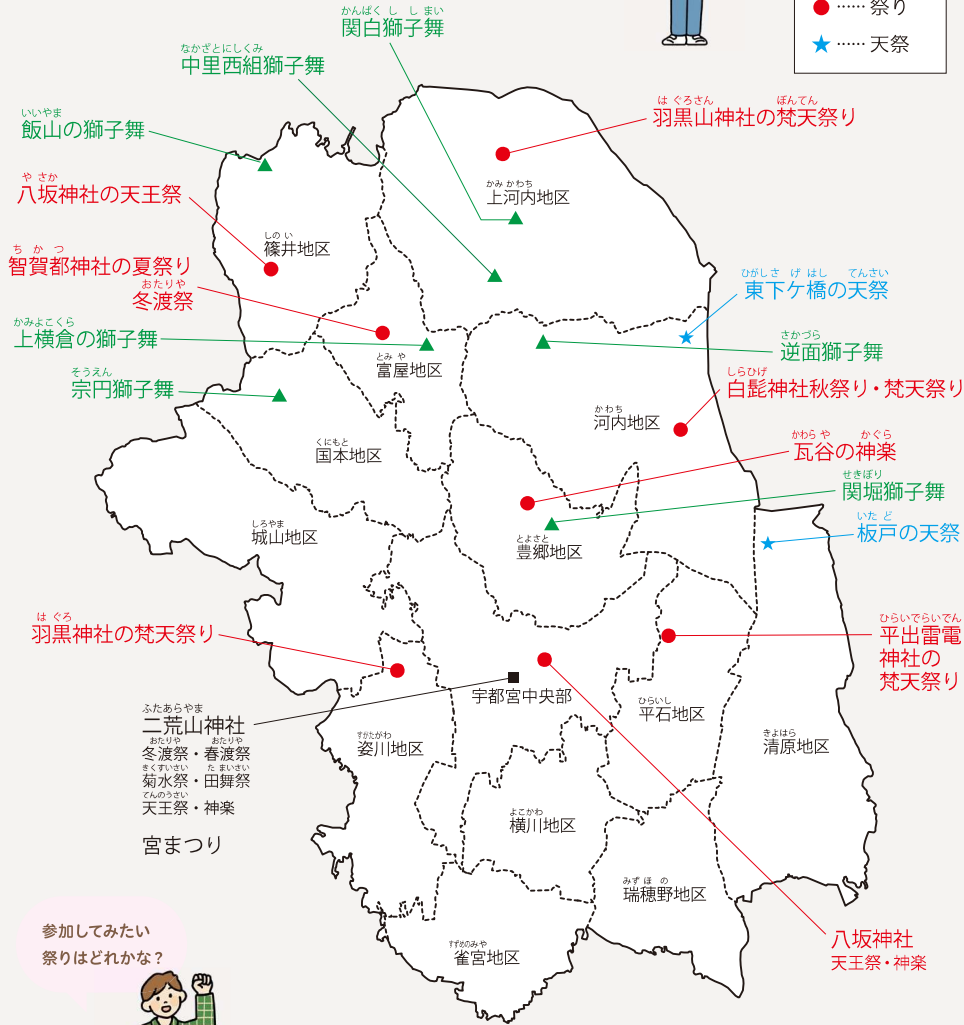


宇都宮市の祭りマップ

宇都宮には、
たくさんの祭りや民俗芸能が
受けつがれているんだね。



- ▲ …… 獅子舞
- …… 祭り
- ★ …… 天祭



参加してみたい
祭りはどれかな？



お囃子風の 音楽に挑戦!

今も昔も、祭りを盛り上げるのにお囃子は欠かせません。宇都宮でも地域や流派ごとにさまざまなお囃子が伝えられています。リコーダーや締太鼓（なげれば小太鼓）で演奏をして、お囃子のリズムや旋律を感じてみましょう。

♩ = 152 ca. 作曲 栗田 智水

リコーダー

締太鼓1 右左

締太鼓2 右左

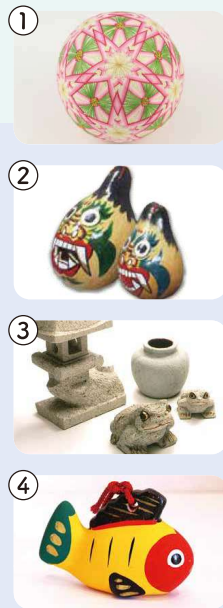
ア

イ

ウ

演奏順位
 団→団→団
 団→団→団→団、団→団→団→団など
 団、団、団を自由に組み合わせて演奏してみよう!

奏法について
 ・締太鼓(小太鼓)をたたくときは左右の強さが同じになるようにたたこう。
 ・強弱記号に気を付けてたたこう。



わかるかな？

右の①～④の伝統工芸品は何でしょう？
あてはまる工芸品の名前と番号を線で結んでみましょう。

▲宮っ子伝統文化体験教室（黄ぶなの絵つけ体験）

①	②	③	④
ふくべ細工	黄ぶな	野州てんまり	大谷石細工



- 3年 → 社会 ●わたしたちの市や生活の様子のうつりかわり 図画工作 ●みんなのギャラリー
- 4年 → 社会 ●わたしたちの栃木県 ●栃木県で受けつがれてきた伝統や文化ざい ●県内の特色ある地いき
- 5年 → 国語 ●「文化を受けつぐ」ことについて考えよう 社会 ●これからの工業生産とわたしたち道徳 ●宮染めの浴衣（地域教材）
- 6年 → 外国語 ●Welcome to Japan.

調べる

宇都宮の伝統工芸品について調べましょう。



黄ぶな

黄ぶなは、古くから縁起物として伝わるもので、昔は農家の副業として作られてきました。



民話で黄ぶなの話を読んだことがあるよ。

→ p.58



どんなふうにして作るのかな？

→ p.78



▲黄ぶなの絵付け



ふくべ細工

ふくべ（ユウガオの実）から種を取ると中が空洞となり、乾燥させると皮が固く引きしまって細工物の材料となります。



炭入れとして使われるようになって、広まったんだ。



ユウガオの実から、かんぴょうがとれるんだよ。料理にも使われているね。昔の人々は、ものをむだにしないように工夫していたんだね。

→ p.82



▲ふくべ細工

野州てんまり

昔、栃木県のことを野州と言いました。てんまりは手まりがなまったものです。野州ゆかりのものの模様の題材として、作り続けられています。



もともとは、女の子がついたり、投げたりして遊んだものらしいよ。



何が材料なんだろう。あのきれいな模様は何をイメージしているのかな？

→ p.78



▲野州てんまり

4 宇都宮の伝統工芸



つかむ

宇都宮の伝統工芸品について、話合ってみましょう。



伝統工芸士

ことば

伝統工芸に関する技術をもっていることはもちろんのこと、その技を後世に伝える役割があり、栃木県または国から認定を受けた方です。

→ p.78

学習問題

宇都宮の伝統工芸品には、どのようなものがあるのでしょうか。





▲宮染め



宮染め

宇都宮で生産される染物を「宮染め」といいます。江戸時代に木綿地を染めるため、染色職人が田川ぞいに移り住んだのが始まりといわれています。



動画があるみたいだからまずは見てみよう！



とてもきれいだったね。でも難しそうだった～。



▲大谷石細工

大谷石細工

大谷石細工は、大谷地域一帯で採掘される大谷石で作られるものです。



昔の人々は、大谷石がやわらかいから、細工しやすいことに気づいていたんだね。



大谷石細工にはどんなものがあるのかな？

→ p.20 → p.46 → p.78

大谷石彫刻家 渡邊哲夫さんのお話

宇都宮の大谷地域で多くとられる大谷石は、やわらかく加工がしやすいという特徴があります。石という名前はついていますが、一番かたい最高級の土だと思いがけず、いつも作品を作っています。他の石と比べると、あたたかみがあり、人間の体に近い石といえるかもしれません。大谷石はさまざまな形に姿を変えることができ、いろいろな表現をすることができます。主役としての大谷石細工の作品もすばらしいものがたくさんありますが、作品によっては、主役を引き立たせるすばらしい名脇役にもなることができます。

大谷石で作品を作る上で一番難しいのは、いろいろな道具を使い分け、石の個性を見極めながら、手作業でなめらかに、そして平らに仕上げることです。大谷石の魅力を、多くの人にもっと感じ取ってもらえるよう、これからも作品を作っていきたいと思います。



まとめる

宇都宮の伝統工芸品について調べたことをまとめてみましょう。



ワークシート

黄ぶな	●黄ぶなとは？
ふくべ細工	●ふくべ細工とは？
野州てんまり	●野州てんまりとは？
宮染め	●宮染めとは？
大谷石細工	●大谷石細工とは？

ひるげる

宇都宮の伝統工芸品についてまとめて、考えてみましょう。



こうした伝統工芸品は、あたたかい手のぬくもりを今に伝えてくれます。これからも大切にしていきたいものですね。



宇都宮の伝統工芸品のよさを見つめ直すことができたかな？

伝統のまち うつのみや

伝統工芸品を作っている方のお話を聞いてみよう。



ふるさとの人



おがわ まさひろ 小川昌信さん

小川さんは、現在ただ一人、県内で黄ぶなを制作・販売している伝統工芸士の方です。

動画を見て、小川さんのお話を聞いてみましょう。



昔はどんな人たちが黄ぶなを作っていたのだろう？



小川さんは、黄ぶな作りをなぜ始めたのかな？



小川さんはこれから黄ぶな作りがどうなっていきたいと言っていたらどう？



あかい たみこ 赤池民子さん

赤池さんは、野州てんまりを20年以上作り続けている伝統工芸士の方です。

動画を見て、赤池さんのお話を聞いてみましょう。



赤池さんは、野州てんまりをなぜ始めたのだろう？



でき上がった赤池さんの野州てんまり、いろいろあったけれど、どうだった？



赤池さんは最後に何て言っていたかな？

宇都宮には、他にもいろいろな伝統工芸品があります。



それぞれ、どんな始まりがあり、現在はどんな方たちが作っていて、作るのにはどんな工夫や苦労があるのか、そしてこれからどうなっていこうとしているのか、ここまで見てきた5品目のように調べてみましょう。

宇都宮の伝統工芸品のこれから — 私たちにできること —



伝統工芸品には、もうなくなってしまうようなものも多かったです。



どれもみんな作てきなものでばかりなのにどうしてかな？



なくなってほしくないけど、そのためにはどうしたらいいだろう？



もっとよく調べて、低学年の子とか家族とか地域の人たちに紹介しよう！



そのためには、私たちが自分で、作品作りの体験をしてみないと！

民話と伝統工芸品

大谷の親子かえる

昔、弘法大師がこの地方を訪れたとき、たくさんのお蜂がまちをおそって、住民たちを苦しめていました。そこで、弘法大師は住民を助けるために観音様を作り上げました。すると、どこからともなく「親子かえる」が現れ、蜂の大軍をおいはらってくれました。それ以来、まちの人は「かえる」に感謝し、今も地蔵守神様として言い伝えています。

※諸説あります。



▲大谷公園にある親子かえる

参考にしましょう

本



『うつのみやの伝統文化』
うつのみやで伝統文化を伝える会
宇都宮伝統文化連絡協議会

先人から受けつぎ、世代をこえて未来へ伝える宇都宮のこころ。祭りや行事、民俗芸能など、「宇都宮」に古くから守り伝えられてきた伝統文化を紹介。



『とちぎの伝統工芸品』
栃木県産業労働観光部工業振興課

栃木県内の伝統工芸品を紹介。伝統工芸士や伝統工芸品の見学先、体験先も掲載。



『下野の手仕事』
下野の手仕事研究会
粕村祐司

細工、神輿、野州てんまり、染織、野鍛冶。かつて職人の仕事はくらしとともにありました。栃木県内に生きる手仕事師45人の横顔にせまります。



『栃木民俗探訪』
とちぎの小さな文化シリーズ企画
編集会議

県内に継承されてきた習俗を祭り・民俗芸能から年中行事、伝統産業まで網羅的に解説。